

年を取っても、このまちで、いつまでも、安心して暮らしたい



なぜ実態把握を行ったの？

市が平成14年度に行った「高齢者実態調査」によると、高齢者世帯の約3割が、何らかの生活上の心配ごとや支援してほしいことがあると回答されていました。

しかし、無記名の調査であったため、それらの方を特定できず、相談対応までは結びつけることができませんでした。

このため、市では相談を待つだけでなく、自ら地域に出向き、高齢者の生活状況などを把握するため、昨年9月から実態把握事業に着手しました。

何を調べたの？

実態把握事業の実施にあたっては、まず日常生活での心配ごとや援助が必要だと思われる独り暮らしの高齢者世帯を対象にしました。

その中でも特に後期高齢者と呼ばれる75歳以上の高齢者434人を対象に昨年の9月から今年の3月末まで一軒ずつ訪問し、健康状態、居住の状況、隣近所や子供、友人との関係、調理や掃除、洗濯、買い物などの日常生活を自分でできるかなどについて聞き取り調査を行いました。

どんなことがわかったの？

対象者のうち転出や不在、入院中などを除く、342人（女292人男50人）の約9割が家族の支援や市などの福祉サービスを受けている方も含め、身体的・精神的に自立した日常生活を



送っていることが分かりました。

除雪や給食、電話による安否確認などの市の福祉サービス（介護保険以外のサービス）利用者は150人で全体の約44%でした。そのうちの57人は今回の調査で必要と判断されたサービスを導入しています。

残る192人は、買い物や通院等を親族などに手伝ってもらう方やすべて自分で行う元気な方でした。

地域社会とのつながりでは、一日のほとんどを家や庭先などで過ごす「閉じこもり」傾向があるとされた方は50人で全体の約15%に上りました。

その理由としては、「友人がいない」、「家族が市内にいない」などの社会的な孤立のほか、外出時の転倒による怪我が心配で外出を控える人などもありました。特に冬場にその傾向が強く見られました。

留萌市の対応は？

今回の結果から、在宅介護支援センターにおいて閉じこもりや物忘れ、痴呆症、市内に親族がないなどの理由で「見守り」が必要と判断した人は、市福祉サービス利用者で44人、自立高齢者で50人の計94人で全体の28%でした。

このデータは、平成14年度に行った留萌市高齢者実態調査の結果（要支援高齢者が約3割）とほぼ一致したことから、支援が必要な方を把握できたものと考えています。

平成16年度においても、在宅介護支援センターを中心に、75歳以上の夫婦世帯を対象とした実態把握事業を行います。独り暮らしの方と同様に3割程度の方々は何らかの支援が必要な世帯として現れると予想されます。

市では、支援が必要な方々を地域社会で支えるため、地域の実情に詳しい民生児童委員のみならずと協力しながら、見守り支援の具体的な方策について意見交換を行っています。

今後の実態把握事業

今年度は、夫、妻ともに75歳以上の夫婦世帯を対象とした実態把握と引き続き75歳に到達した高齢者への実態把握も行っていきます。

これにより、すでに介護保険を利用していらっしゃる方や家族と同居されている方を除いた留萌市の後期高齢者（75歳以上）の生活状況を把握していきたくと考えています。

そして、すでに市で把握している介護保険利用者の情報と今年度中に得られる後期高齢者の情報を合わせた高齢者台帳を作成し、介護相談の対応や介護予防（寝たきりや安易な施設入所を防ぐこと）事業などに活用する予定です。

今後の実態把握事業への市民の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

このような時は、ぜひ、ご相談ください。

- ヘルパーやデイサービスなどを利用したい。
- 日常生活が大変なので、ベッドやポータブルトイレ、入浴イスを使用したい。
- 立ったり、歩いたり不安定なので、手すりや杖、歩行器を使用したい。
- 自分で身の回りのことができなくなってきたが、手伝ってくれる人がいない。
- 物忘れがあり、お金や財産の管理などに不安がある。

- 独り暮らしで、寂しい、生活に不安がある。
- 介護の仕方が分からない、介護の負担が大きき手助けしてほしい。

私どもがご相談に応じます！

在宅介護支援センター は一とふる ☎49・4140

在宅介護支援センター 萌 寿 園 ☎43・1140

